

会議名	第3回 子育てひろば事業（あっぴい高輪）等開設準備及び運営業務委託事業候補者選考委員会
開催日時	令和7年3月3日（月）午後2時から午後5時まで
開催場所	港区役所9階 914会議室
委員	（出席者）5名 岡田委員長、白井副委員長、安梅委員、石井委員、石原委員 （欠席者）なし
事務局	高輪地区総合支所管理課長、管理課施設運営担当係長 子ども家庭支援部子ども政策課長、子ども政策推進係長、子ども政策推進係
会議次第	1 開会 2 第二次審査実施概要について 3 事業候補者によるプレゼンテーション及びヒアリングの実施 （1）A事業者（30分間） （2）B事業者（30分間） （3）C事業者（30分間） 4 第二次審査結果及び事業候補者の選定について 5 その他 6 閉会
配付資料	資料1 第二次審査実施概要 資料2 第二次審査採点基準表（3事業者分） 資料3 第一次審査・第二次審査集計結果（※採点終了後、机上配付） 資料4 第2回選考委員会議事録概要 参考資料1 第一次審査集計結果 参考資料2 事業候補者選考基準 参考資料3 仕様書
会議の結果及び主要な発言	
（発言者）	1 開会 （委員長より開会の挨拶） （事務局から配付資料の確認）  2 第二次審査実施概要について （事務局から資料1について説明）  3 事業候補者によるプレゼンテーション及びヒアリングの実施 （1）A事業者（30分間） 【A事業者のプレゼンテーション】

B委員	今までにないような大型の遊具などを設置した施設になりますが、もう少し詳しく、どのような新しいことを展開しようとお考えですか。
A事業者	今回はダイナミックな遊びができる環境を生かしながら、プログラムを充実させたいと考えています。父親の参加を促すことや、施設内の3つの事業の関係性を密にするなど様々な方法で、地域の子育て支援事業として、充実させていきたいと考えています。
B委員	関係性を密にするにはどのようなことが必要だと考えますか。
A事業者	3つの事業のクロストレーニングを定期的に行い、他の事業の現状をそれぞれの職員が把握していくことが必要だと考えます。相談目的ではない、遊び場に来た方にも、何か困りごとがないか常にアンテナを張って行動することや、その情報を職員間で共有することが必要だと考えます。
C委員	プログラムを充実させたいとのことです、利用者が気軽に相談できる関係性を築くような取組や、利用者が定着するような具体的な取組について教えてください。
A事業者	子ども自身が何か制作活動をするだけでなく、そこで完結せずスタンプラリーのように、次々に活動ができるような取組を考えています。また、どちらの事業も相互に利用できるように、一時預かりの利用者に、次は遊び場に行ってみましょうというように促すことも必要だと考えます。さらに、利用者に安心して来ていただけるように、笑顔と挨拶を徹底したいと思っています。
C委員	子どもの遊び場は、子どもメインの居場所づくりとなってしまうところがありますが、大人の居心地の良さについては、どのように作る予定ですか。
A事業者	普段から親子でやっているような慣れ親しんだ写真を取ることを促すことや、どんなイベントがあったらまた利用しますかといったアンケートを実施することや、多くの利用者に積極的に話しかけることなどを通じて、大人の居心地の良さを作りたいと考えています。
D委員	職員の欠員時の対応などの緊急時の対応についてマニュアル整備などはどのように考えていますか。
A事業者	現時点で明確に定めているものはないため、今後作成を行う予定です。既存の取組としては、近隣の施設から対応できる職員を呼びかけるような取組を行っています。あっぴい高輪等のマニュアルについては、これから作成を進めています。
D委員	今回の屋内遊び場というのは新たな施設になりますが、その中で入退館システムの導入については、すでに他の施設で利用している実績はありますか。どのような観点で導入予定の入退館システムに着目したのか教えてください。
A事業者	現時点での利用実績はありませんが、混雑状況が把握できる点や、導入コストを検討した結果、今回のシステムに決めました。
D委員	保育園と一時預かりとでは利用者との関係性の構築方法が異なると思いますが、注意するべき点、配慮するべき点についてどのように考えていますか。
A事業者	最初の利用時に様々なお話を聞くというのは一緒だと考えます。保育園の場合は、入園のときに一人一人面談をして、時間をかけて保育園で過ごしやすいようにしていくのですが、一時預かりの場合は、限られた時間の中でご家庭での状況を密に聞くことが重要だと考えます。例えばどんな遊びが好きなのか、どんなおもちゃが好きなのか、そういうところを十分に聞いて一人ひとりに合うように、個別対応していくのが一時預かりなのかなと思います。
E委員	新しい施設として3つの事業のそれぞれの役割と、3つの事業をどのように連携させて区民に子育て支援サービス提供していくのか、教えてください。
A事業者	遊び場に来た人が、子育ての相談ができることや、利用者つながりを広げることができるような施設として、それぞれの役割があると考えます。そのため、3つの事業のクロストレーニングを行い、それぞれの事業の理解を深めることができることが大事だと思っています。利用者の困りごとがないか気を配り、気が付いた点は一時預かり事業と遊び場事業に情報を提供することで、連携していくべきと思っています。
E委員	それぞれ施設の目的や役割を理解し、それを補完し合うために必要なことにど

A事業者	<p>どのように考えますか。</p> <p>遊び場については、一時預かりのように相談をしに来ているわけではない人がたくさんいる中で、困り事がないかということに気づく必要があると考えます。一時預かりについては、相談に来た人たちの中から、少し心を開いたら次はこうした遊びが良いのではないかと提案していく中で、遊び場の利用につながるを考えます。</p>
E委員	<p>この施設は地域の中でも重要な相談拠点となると思いますが、どのように役割を果たしますか。</p>
A事業者	<p>まずは居場所を求めてくる方々に対して、こうした場所がありますよという情報発信をしていきたいと思います。来てくれた方々に対しては、とにかく誰かと話したいという要望に応えられるように、話を聞いてくれる場所にしていきたいと思っています。話すのが苦手な人にも、話せるきっかけを与えて、たくさん話を聞いて子育ての不安をなくしていくことで、子どもを育てることが楽しいと思って欲しいと思っています。</p>
E委員	<p>当施設を運営していくにあたって、子ども自身の声を施設の運営にどのように生かしていくのか、考えていることがあれば教えてください。</p>
A事業者	<p>子どもの声を聞きやすいところは遊び場の方だと思うので、子どもがどんな遊びを楽しんでいるのか、子どもの興味関心はどこにあるのかというところを探りながら、子どもと一緒に考えていくというのが良いと考えます。一時預かりは、保護者と一緒に子どもがどんな遊びをしたいのか、聞き取りをしたり察知したりしながら、子どもの様子を伺いながら、子どもにどんな遊びが必要かというのを考えていければ良いと思っています。</p>
A委員	<p>施設長候補者の方の保育所の施設長の経験も長いですが、今回、施設長候補者として、これまでの保育所における安全対策危機管理と、新しい施設の危機管理、安全対策で、今まで以上に気をつけるべきと考えていることがあれば教えてください。</p>
A事業者	<p>保育園の場合の危機管理は、職員はもちろんですが、子どもたちも一緒にそれを学びながら育っていくと思うのですが、当施設は利用者がいつも同じというわけではないので避難の仕方やB C P対策は、独自に整えていかなければいけないと思っています。特に、保育園以上に、知らない人が入ってくる可能性もあると思うので、セキュリティは強化していきたいと思っています。</p>
A委員	<p>正規職員の給与の記載は初任給でしょうか。</p>
A事業者	<p>初任給ではなく、入社6年程度の職員の給与を平均して記載しています。 【A事業者のプレゼンテーション終了】</p>
<p>(2) B事業者 (30分間) 【B事業者のプレゼンテーション】</p>	
B委員	<p>現在の区の子育てひろば事業の施設長を経験している中で、工夫が必要だと感じる点について教えてください。</p>
B事業者	<p>リスクがない遊びを中心に考えてしまうため、保護者も子どもも何をしたら危ないのかということが分からず人が多いと感じます。今回も新しい施設のような大型の遊具がないことが、既存の子育てひろば事業の課題だと考えます。</p>
B委員	<p>マネジメントの観点では何が課題だと考えていますか。</p>
B事業者	<p>既存の施設においては、周知活動を積極的に行うのが重要であり、地域のお祭りなどに活用していくことが必要だと考えます。また、利用者の様々なニーズに対して答えていく必要があると思います。</p>
B委員	<p>リーダーとしてどのようなマネジメントが必要だと考えますか。</p>
B事業者	<p>既存の施設では、近隣の施設で体調不良などにより人員が欠けた場合でも、フォローできるように体制は整えています。新しい施設でも、自分自身はすべての事業の内容を把握するとともに、職員にも理解を求めてフォローし合えるような環境を作っていきたいと思います。</p>
C委員	<p>現在の統括施設長の役割について具体的に教えてください。</p>

B事業者	同じ建物内にある保育施設と一時預かりや子育てひろばのある施設の統括業務を行っております。それぞれの利用者の情報共有や面談の調整、イベントのとりまとめなどを行っております。
C委員	人材配置を年齢ピラミッドで行うことですが、職員の入れ替わりが頻繁に行われる可能性があることを考えると、利用者が特定の人に関わり続けることが難しくなると思われますが、その点についてどのように考えますか。また、「子育て力の向上」という指針に記載しているものは具体的にどのようなものか教えてください。
B事業者	年齢ピラミッドにつきましては、相談業務ということに関しては子育てに関して豊富な知識がある職員を配置し、対応していく予定です。「子育て力の向上」につきましては、特に遊び場に関して、子どもにとっては少し難しい遊びなどについて、どのようにしたら遊ぶことができるのか子ども自ら学ぶということに加え、大人も一緒に体験することで実現したいと考えています。大人も一緒に体験することで、「こうしたら危ない」というところや、「ここは挑戦させてあげよう」という理解につながり「子育て力の向上」になると考えています。
D委員	職員の欠員の対応はLINEWORKSを使うとのことですが、この仕組みを稼働させた実績について教えてください。
B事業者	経緯としては、24時間緊急時に対応できるように体制を整えるため導入しました。稼働状況の実績としても、現状の仕組みとして、当日の欠勤などの連絡は法人本部、施設両方に連絡をすることとなっております。
D委員	今回の屋内遊び場というのは新たな施設になりますが、その中で入退館システムの導入については、すでに他の施設で利用している実績はありますか。どのような観点で導入予定の入退館システムに着目したのか教えてください。
B事業者	今回導入するシステムは初めて利用するシステムになります。複数社よりコンペのような形式で提案を受け、比較検討したうえで7月の開設に実行可能なシステムを選びました。
E委員	3つの事業をどのようなコミュニケーションを通して連携し、どのように発展させていくのか考えを教えてください。
B事業者	子育てひろばの取組については、既存の施設での経験を活かして取り組んでいきます。子育てひろばは公園デビューする前の子どもの利用が多いため、子どもを遊ばせながら子育ての相談に乗るということをし、発達の状況を見ながら思い切り身体を動かせる遊び場につなげていくようなサポートをしていきたいと考えます。また、子どもと離れて過ごすということも大切なことだと考えているため、子育てひろばで相談を受ける中で、保護者が1人で過ごす時間を作るために一時預かりの利用を促すということを考えています。そのためにも、それぞれの利用者の子どもの発達状況などについては、3つの事業それぞれで情報共有し、支援していくことが大切だと考えます。
E委員	保護者の方の声を聞きながら運営を行っていくことですが、子ども自身の声を取り入れながら施設をより良くするといった考えがあれば、具体的な取組を教えてください。
B事業者	子ども自身の声を取り入れながら施設をより良くするという部分については、制作活動の中で取り入れたいと考えています。自由に作って自由に飾るということを通じて、子ども自身が自発的に「お買い物ごっこやりたい」などの意見が出た場合には、どうやったらみんなでできるかを考えてもらいながら、子どもたちの意見を叶えていきたいと思います。
A委員	あっぷい高輪や屋内遊び場のイメージ図を見た中で、魅力的に感じたところについて教えてください。
B事業者	ボルダリングについて、魅力的に感じました。港区の公園にボルダリングは多くあるんですが、屋外でやることに踏み込めない保護者の方が多くいると思います。そのため、屋内で職員が見守っている環境でボルダリングに挑戦できることはとても魅力的だと感じました。
A委員	マニュアルについて、とても詳しく記載されていますが、この分厚いマニュアルを職員にどのように周知していきますか。

B事業者	マニュアルについては、一度に全て覚えるのは難しいことがありますので、定期的な研修や、様々な委員会を通じて、繰り返し周知をしていく予定です。 【B事業者のプレゼンテーション終了】
	(3) C事業者（30分間） 【C事業者のプレゼンテーション】
B委員	今回の施設は3つの事業がありますが、1+1+1が10になるようなアイデアやリーダーシップがあれば教えてください。
C事業者	一時預かりでは、保護者の方が理由を問わず、子ども預けられますので、自分のリフレッシュのために利用していただくのが大切かと思います。子育てひろばでは、子どもと一緒に遊んだり、保護者同士が繋がって交流が持てたり、仲間が増えたりするところとして、利用していただきたいと思います。屋内遊び場事業では、子どもが体を動かすということがメインになりますので、雨の日でも自由に遊べる施設でありながら、保護者自身も少しほっとできる空間になると思います。これらを総合的に活用し、心がリフレッシュしながら、子どもとも遊べて、保護者同士のつながりもできるような、複合的に子育てが楽しめる施設になると思います。
B委員	それを促進していくために職員に対しては、どのようなリーダーシップを発揮しますか。
C事業者	目的は1番最初に伝えたいと思います。何のためにこういった施設があるのかというところを伝えます。また、それぞれの施設ごとにリーダーを配置しますので、リーダーたちにも強いリーダーシップを発揮していただきながら、それぞれの施設が連携して、業務を執行できるようにしていきたいと思います。
C委員	施設長候補者の、経歴を拝見しますと、早いペースで社内での異動をしているように思えますが、その中でどのように施設の専門性を担保しますか。
C事業者	当社に勤めている期間は長いのですが、様々な保育施設や子育て支援に携わる中で、それぞれの経験が様々な場所を見ることで、生かされていると思います。会社の中でどういった保育を大事にしていくかという目指す方向は、どの事業所でも同じだと思います。
C委員	子育て支援を行う上で、職員が頻繁に変わってしまうという状況は避けるべきだと考えますが、施設長候補者の方は新しい施設にはどの程度在籍する予定ですか。
C事業者	港区のあっぴいの立ち上げなどにも、本部職員として関わりつつ、様々な子育て支援施設において、実際の現場の経験も積んでおります。この経験を活かすためにも、短期間で異動をする構想ではありません。
C委員	遊び場でのイベントをたくさん企画されているかと思いますが、保護者の居場所として定着するための策があれば教えてください。
C事業者	イベントは、足を運んでいただくためのきっかけになると考えています。施設には行きたがらない保護者の方もいると思うので、1度経験してもらい「こんな場所なのだ」と理解してもらうことで、足を運んでもらいやすくなると考えています。繰り返し足を運んでもらうためには、職員の笑顔と丁寧なコミュニケーションが大切だと考えます。
D委員	職員の欠員時の対応などの緊急時の対応について、しっかりと明示されていますが、実際にマニュアルなどに基づいて緊急時の対応が行われた実績はありますか。
C事業者	最近ですと、新型コロナウイルスなどで急遽職員が1週間程度欠勤となることがありました。近隣の類似施設で同等の業務を行っていますので、初めて施設に来た職員でもある程度の引継ぎを行えば、他の職員と同等のレベルで業務を行うことができます。また、職員体制を構築するときに体調不良などに備えて、余裕を持った職員配置を行っておりますので、応援に行く施設の職員配置が足りなくなるということもなく運営することができます。さらに、運営するエリアをある程度集中しておりますので、何かあったときは短時間で駆けつけ

D委員	することもできます。また、本社でも資格を持っているものは常時把握しておりますので、施設間での応援ができない場合は、本社から急遽応援できるよう、本社の職員も常にロッカーにはユニフォームが整っております。 入退館システムの導入について、すでに他の施設で利用している実績はありますか。
C事業者	既存で使っているシステムをアップデートし導入します。現状のシステムはインターホンで押していただいて、中からロックで開けるという仕組みですが、さらにQRコードをかざしてロックを解除するというものに付け替えます。予約者のスマートフォンなどにQRコードが送付される仕組みで、予約者の予約した時間のみ有効なものとなるものであるため、安全性が高まります。スマートフォンがない方の場合は、パスワードでの対応ができるものとなっております。また、この施設で導入する前に、別の施設で実稼働をさせる予定です。
E委員	屋内遊び場のプレーリーダーについて、どのような役割で、どのように配置していくと考えていますか。
C事業者	プレーリーダーには、子どもの体操指導の専門家を配置する予定です。現状、目黒区の公園や小学校、体育館などを使ってスポーツイベントなどを定期的に開催しておりますが、そこでリーダーをやっているものを配置する予定です。乳幼児の体の育ちや、発達段階に応じた運動機能の成長などの専門性を持っているものです。資格としては、小学校体操教諭の資格を持っています。
E委員	社内での研修についてはどういったものを考えていますか。
C事業者	乳児の発達段階を知ってもらうための乳児保育の研修や、きょうだいでの利用もあると思うので、幼児教育の研修を受けてもらうことを考えています。また、幼児体操の検定の協会があるため、他のメンバーにも検定も受講させる予定です。
E委員	この施設は地域の中でも、相談拠点の一つになると思いますが、地域と一体となった子育て支援について、どのように進めていくのか教えてください。
C事業者	地域と一体となった子育て支援を行うために、地域の方々との連携が大事だと思っています。具体的に考えているのは、お互いの情報共有のために、町会の掲示板にこの施設のことを載せていただくことや、この施設のお便りコーナーで、地域のイベントを発信することや、地域の防災訓練に参加してそこで知り合えた保護者の方に施設のことをお話するなど、様々なイベントやお祭りに参加し、地域と一緒にになって、運営を進めていきたいと思います。
E委員	子どもを中心に施設運営を行ってきたという印象ですが、新しい施設において子ども自身の声を取り入れながら施設をより良くするといった考えがあれば、具体的な取組を教えてください。
C事業者	日頃から保護者の方と直接コミュニケーションをとることが大切だと考えます。保護者の方から率直な意見を聞くことや、言いづらいことはハートフルボックスのようなご意見箱を設置して、無記名でも投函ができるようにすることなど、様々な意見を取り入れができるような工夫をしたいと思います。子どもの声は保護者が一番感じているところだと思います。子どもの笑顔や子どもの姿を見て、保護者は色々なことを考えるとと思うので、子どもの様子を見ながら、保護者の意見をしっかりと取り入れて運営していきたいと思います。
A委員	子どもが1日中この施設にいて楽しかったと思ってもらうことが大切だと思いますが、そのために日頃からどのようなことを考えていますか。
C事業者	受け入れ前に保護者の方から子どものことをたくさん聞いて、まずは子どものことをしっかりと理解することが大切だと考えます。実際に預かった際には、職員が子どもと1日過ごした中でどのようなことを感じたのか共有し、その子どもに合わせた環境を作っていくことが大切だと思います。こうしたことを通じて、子ども自身が「この先生は自分の気持ちを分かってくれる先生なのだ」と思うことで子どもの心が安定し、自ら遊んでみようと思うことができる環境を作ることができれば良いと考えます。
A委員	既存の遊び場の施設と新しい施設のイメージ図を比較した際に、魅力的に思ったところはどのようなところですか。

C事業者	<p>事前の見学にも参加させていただきましたが、非常に広いという印象を受け、この施設で子どもが体を動かして遊ぶイメージが付きました。都会の中に雨の日でも自由に体を動かせる場所があるのはとても素晴らしいと感じました。</p> <p>【C事業者のプレゼンテーション終了】</p> <p>(採点)</p>
	<p>4 第二次審査結果及び事業候補者の選定について</p>
委員長	採点の集計結果について事務局から説明をお願いします。
事務局	<p>一次審査の採点結果は、A事業者は654点、B事業者は736点、C事業者で742点となりました。</p> <p>第二次審査の採点結果は、A事業者は262点、B事業者は297点、C事業者は384点となりました。</p> <p>第一次審査の合計点と、第二次審査の合計点を合計した結果、第一次審査及び第二次審査の評価点の総合計は、A事業者は916点、B事業者は1033点、C事業者は1126点となりました。</p> <p>第一次審査及び第二次審査の評価点の総合計を踏まえ、最終順位としては、第1位はC事業者で1126点、第2位はB事業者で1033点、第3位はA事業者で916点となりました。</p>
委員長	それでは、この点数を受けまして、各委員の皆様からご講評をお願いし、内容を審議します。
B委員	C事業者を一番高く評価しました。施設長候補者が論理的に回答できているかということが非常に大きな要素でもあると考えているため、この評価となりました。また、法人本部のサポート体制も十分整っており、いざという時の対応がしっかりと実行できると感じました。総じて、法人本部のサポート体制、施設長候補者のリーダーシップを評価しました。
C委員	C事業者を一番高く評価しました。C事業者は他の事業者よりも説明内容が具体的で、論理的な内容でした。C事業者の具体策は、期待が持てる内容であったため、一番高く評価しました。
D委員	C事業者を一番高く評価しました。A事業者は施設長候補者の熱意は感じましたが、本部のバックアップに少し不安を感じました。B事業者は法人本部のバックアップは十分なもの、施設長候補者の回答に少し不安を感じました。C事業者は施設長候補者も法人本部のバックアップ体制も評価できるため、信頼できる事業者であると感じました。
E委員	C事業者を一番高く評価しました。施設長候補者を高く評価し、他の事業者とは評価が分かれました。C事業者の施設長候補者は施設としての役割をよく理解しており、考え方や運営に対する思いも明確でした。法人自体も安定的な運営が期待できると感じました。
A委員	C事業者を一番高く評価しました。A事業者は子育て支援施設ということを考えると十分な理解がされていないと思いました。B事業者は、プレゼンテーションは良かったのですが、質疑応答での受け答えに不安を感じました。C事業者はプレゼンテーションも的確で子育て支援施設をよく理解しているという印象を受けました。また、法人本部のバックアップ体制もしっかりとしているため、高い評価としました。

委員長	委員の皆さん点数等の変更はありますでしょうか。 (意見なし)
委員長	採点に変更がなかったため、先ほどの事務局から説明があったとおり、第一次審査、第二次審査合計点数及び順位は 第1位、C事業者、合計点数 1126 点 第2位、B事業者、合計点数 1033 点 第3位、A事業者、合計点数 916 点 とします。 よって、子育てひろば事業（あっぴい高輪）等開設準備及び運営業務委託事業候補者は第1位のC事業者でよろしいでしょうか。 (異議なし)
	それでは、当委員会として、子育てひろば事業（あっぴい高輪）等開設準備及び運営業務委託事業候補者は、C事業者に選考いたします。事務局から事業者名の発表をお願いします。 (事務局から事業者名の発表)
	5 その他
委員長	6 閉会 (委員長閉会のあいさつ)